らず匂ひうつくしう侍しかば、辨内侍、

けふはまたそらだきものゝ名をかへてたのめば深き匂ひとぞなる

〔看聞日記〕應永二十五年八月一日、八朔風俗、千秋嘉兆、幸甚々々、仙洞御憑、大鉢一、立石子提、地小文鳥打銚付鑑付付永基進之、室町殿○足利義持進物、酒海、銚子提、引合五十帖、若公、金銅盃、折敷、橘打枝三種入、銚子提、引合三十帖、内々付女房、當年初而進之、宮中男女進物如例、三位一獻如恒規、菊第三條勸修寺等如例年、進物注別紙、三日、菊第三日憑一獻等被進之、壽藏主御憑一獻如例、四日、源宰相參、御憑太刀一振持參、小一獻等申沙汰、五日、自長階局御憑獻之、則返遣之、六日、御憑返、宮中男女賜之、勝阿今日進之、遲々比興也、

〔康富記〕嘉吉二年八月一日己丑、晝過程、參清外史之文亭、依遲參、先有使、例式賞翫蕙粥、有一盞之後退出了、外史被語云、今日食蕙粥之事、未見出處、若被見及歟、予十節記之中、不見此粥之事、之由返答了、誠可尋出處文也、

南呂之令節、中華之嘉珍、祝著幸甚、殊先傾一鍋、次用一雙之條、御計殊本望候、爲其禮、太刀一腰、杉原十帖、筵十枚進候、期面賀候也、

八月一日　爲返狀、間歟、表無充所也、　業忠

ついたちのめでたき御返し、ことさらばかり、一かさねつかはされ候よし、おほせ事に候、めでたくかしく、

日向どのへ

應司殿ヨリ御返し

自御所樣返、殊更計ニ、三色被使候由、心ろへて申候へと被仰下候、恐惶謹言、

八月六日　引合十帖、扇、茶碗等被下也、　季隆

表書　日向守殿　　裏書　季隆　一條少將

文安五年八月一日乙卯、八朔之御禮、紙一束、杉原旦紙　御太刀金覆輪　一腰進上、院御所親王御方、同兩種進